

## 土壌診断による適正施肥で良質・良食味な米づくり

### 月旬 作業項目 栽培の要点

3月	中	播種準備	床土の準備	○塩水選 種粉 比重 水10ℓ当りの食塩量 うるち 1.13 2.0~2.1kg もち 1.08 1.2kg
	下		塩水選種子消毒	
4月	上	育苗期	催播	葉いもち・初期害虫防除(箱施用)
	中		畦畔の補強	
5月	下	活着期	本田施肥	本田施肥
	上		代かき	
6月	中	分けつ期	除草剤散布	ドロオイムシ防除(多発時)
	下		残草対策(〜7月上旬)	
7月	上	穂首分化期	中干し	葉いもち防除(水面施用)
	中		追肥	葉いもち早期発見・早期防除
8月	下	穂ばらみ期	低温時深水(15~20cm)	稲こうじ病防除(出穂10~20日前) ノビエの抜き取り(カメムシ対策)
	上		高温時は間断かんがいて根腐れ防止	穂いもち・紋枯病防除(出穂直前)
9月	中	登熟期	低温時には深水で登熟促進	穂いもち防除(穂揃期)
	下		間断かんがい	カメムシ防除(残効性の高い1回散布剤を基本)
10月	上	収穫・調製	栽培日誌提出	カメムシ追加防除(多発時)
	中		適期刈取	乾調
	下		乾燥	稲わらすき込み

#### 青天の霹靂

**栽培基準**

- 土壌診断に基づく土壌改良(ケイカル・ようりん施用等)
- 農業使用成分「10成分」以内
- 種苗の譲渡と自家採種の禁止
- 栽培管理記録の記帳(栽培日誌の提出)

**出荷基準**

- 検査等級 1・2等
- 玄米タンパク質含有率 水分15%換算 6.4%以下

#### 特性比較一覧表

項目	まっしぐら対比	はれわたり対比
草丈	並	み
葉色	並	み
幼穂形成期	並	み
出穂期	2日程度遅い	1日程度遅い
成熟期	並	み
稈長	やや長い	並
耐倒伏性	やや弱い	やや弱い
葉いもち病	やや強い	やや強い
穂いもち病	やや強い	並
収量性	やや少ない	やや強い

※KSK28は幼穂形成期〜出穂期までに流し込みすると、タンパク値抑制と増収が期待できる。ドローンでの茎葉散布も可能。(KSK28はケイ酸室資材のため化学態窒素制限はありません)

#### 栽培の注意点

**施肥**

- 基肥を6kg/10a程度、追肥は乾田で2kg/10a、半湿田では1kg以内を目安とする。
- やむを得ず湿田で作付けする場合は、生育量確保と生育後半の土壤窒素発現量を考慮し**基肥重視**とする。
- 施肥方法は原則として追肥1回体系とする。
- 追肥は幼穂形成期とし、それ以降は行わない。
- 生育後半に土壤窒素発現量が多い水田は「**無追肥**」とする。
- 復元初年目の水田では施肥による生育コントロールが困難なので、作付しない。

**刈取適期**

- 出穂後積算気温で900~1,100℃とする。
- 刈遅れると胴割れ米による落等が懸念されます。

#### 育苗

◎種子消毒(例)

薬剤名	処理法(低濃度)
テクリードCフロアブル	200倍液に24時間漬ける(種粉20kgで水20ℓに薬剤100mℓ)
スポルタック乳剤	1,000倍液に24時間漬ける(種粉20kgで水20ℓに薬剤20mℓ)

・浸漬中は2~3回攪拌する。

◎浸種

水温10℃: 10日  
水温15℃: 6~7日

◎播種量(箱当たり)

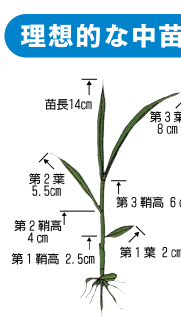
乾粉	100g
催芽粉	約125g

◎催芽

30~32℃で16~20時間加温

◎苗立枯病防除

薬剤名	箱当たり施用量
タチガレエースM粉剤	8g
タチガレエースM液剤	500mℓ(500~1,000倍)
ナエファイン粉剤	8g
ナエファインフロアブル	500mℓ(1,000倍)



◎温度管理

生育時期	日中	夜間
育苗箱設置〜出芽期	35℃以下	10℃以上
出芽期〜1.5葉期	30℃前後	5℃以上
1.5葉〜3.0葉期	25℃前後	
3.0葉期以降	20℃前後	

#### 水管理

生育期	寒い日の水深	普通〜暖かい(暑い)日の水深
活着期	4~5cm程度(冠水しないように)	2cm程度
分けつ期	5~6cm程度	3cm程度
有効分けつ終止期	5~6cm程度	中干し
幼穂形成期(深水かんがい)	10cm、10日間	
穂ばらみ期	15~20cm	4cm程度(時々水の入れ換え)
出穂開花期	10cm程度	5~6cm程度(時々水の入れ換え)
登熟期	10cm程度	2~3cm程度(湿田などでは間断かんがい)
落水時期	湿田は出穂後20~25日、乾田は出穂後30~35日	

◎適期刈取

品種名	出穂後積算気温(℃)	籾の黄化程度
まっしぐら	960~1,200	圃場全体の籾が90%程度黄化したとき
はれわたり	970~1,300	

◎乾燥・調製

玄米水分	米選機の網目	整粒歩合
15.0%	1.9mm	80%以上

#### 施肥

◎窒素施肥基準量

品種名	湿田	半湿田	乾田
まっしぐら	7~8	8~9	9~10
はれわたり	6~8	8~9	9~10

(窒素成分総量kg/10a、堆肥1t/10a)

#### 施肥体系

	窒素施肥基準量に対する割合	追肥時期	
追肥1回体系	基肥70~80%	追肥20~30%	幼穂形成期
追肥2回体系	基肥60%	1回目 追肥20%	1回目: 幼穂形成期
		2回目 追肥20%	2回目: 幼穂形成期の10日後
全量基肥体系	追肥1回体系または、追肥2回体系の窒素総量(基肥+追肥)の5~10%減肥。		追肥はしない

#### 本田の土づくり

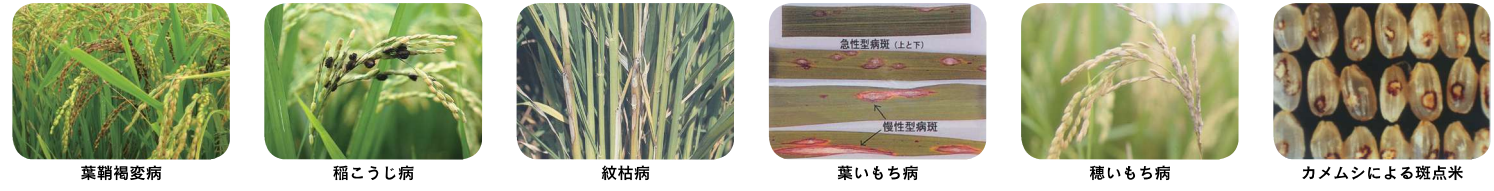
項目	10a当たりの施用量	主な効果
ケイ酸資材(KSK28)	1.4kg	収量向上、病害虫への抵抗性向上、耐倒伏性向上
	(珪カル等)	
りん酸資材(ようりん等)	20~80kg	生育安定化

※土壌診断結果に基づき必要な成分・量だけ施用する。

#### 発生に注意する病害虫

- 薬剤散布時には周辺作物に飛散しないよう十分注意する。
- 農業の使用に当たっては水系への流出を防ぐため、**散布7日間**は落水、かけ流しはしない。

葉鞘褐変病	○低温・多湿条件下で発生しやすく、穂ばらみ期〜乳熟期に多雨または曇天が多いと多発する。 ○穂ばらみ期に感染すると不稔歩合が多くなり、青米・茶米等が増加する。 ○発生を予測するのは困難であるが、薬剤防除は水割または粉剤を穂ばらみ期初期〜出穂初期に散布する。
稲こうじ病	○前年発生が見られたら、出穂10~20日前に必ず防除。
紋枯病	○出穂期以降の高温多雨や多肥栽培で発生が増える。 ○出穂直前に茎葉散布を行う。多発生が予想される場合や例年発生が多い水田では穂揃期にも散布する。
いもち病	○補植苗は早めに処分する。 ○葉いもちを見つけたら直ちに薬剤散布する。 ○葉色の濃いところ、露がなかなか消えないところは要注意、早期発見が基本です。 ○穂いもちは出穂直前と穂揃期の2回防除する。 ○最低気温18℃が2日以上続いた場合や、最低気温が16℃以上に達して朝露や霧の晴れない日が続いた場合に感染しやすい。
カメムシ類	○発生源となる休耕田や畦畔、水路の除草で密度低下。 ○薬剤散布はなるべく広域一斉に行う。 ○キラップ剤は穂揃期〜7日後、ダントツ剤・スタークル剤は穂揃期7~14日後に茎葉散布。 ○例年発生が多い水田や、登熟後期に発生が多い場合は最終散布の7~10日後に追加防除をする。





# 水稲直播栽培のしおり

JA全農あおり・JAごしょつがる

直播栽培による作業分散と省力化で経営改善を図ろう！

## 生育過程・作業体系

生育過程	播種期			出芽・苗立ち			分け時期			出穂期			登熟期			成熟期		
	3月	4月	5月	5月	6月	6月	7月	7月	8月	8月	9月	9月	10月	10月	11月	11月	11月	
月旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	
作業体系	<b>湛水直播</b> 塩水選 → 種子予措 → 播種 → 除草剤散布 → 追肥 → 中干し → 間断湛水 → 落水 → 収穫乾燥調整 → 稲わらすき込み(耕起)																	
	<b>乾田直播(耕)</b> 塩水選 → 種子消毒 → 浸種 → 播種施肥 → 除草剤散布 → 追肥 → 中干し → 間断湛水 → 落水 → 収穫乾燥調整 → 稲わらすき込み(耕起)																	

## 適応品種

「まっしぐら」や飼料用米等を中心に地域の気候に合わせた品種を選定。

適応品種
津軽中央地帯 まっしぐら、はれわたり、飼料用米
津軽西北地帯 まっしぐら、はれわたり、飼料用米
南部平野内陸地帯 まっしぐら、はれわたり、飼料用米 早生品種(ほっかりんなど)

## 播種期

○ 早限: 日平均気温12°C到達日。  
○ 晩限: 出穂後40日間の登熟気温が日平均20°Cを確保できる日。

湛水直播
5月6日～5月15日頃(早生品種では5月20日まで播種可能)
乾田直播
4月25日～5月15日頃

〔直播栽培の特徴〕 水稲の直播栽培は、水田に直接種籾を播く栽培方法で、播種方式の違いにより「湛水直播」と「乾田直播」とに大きく区分される。

湛水直播: 移植栽培と同様に耕起、代かきの水田に種籾を土中0.5～1cmの深さに播種する方式。播種作業が天候の影響を受けにくく、代かきを行うため漏水の問題がなくどの水田でも導入できる。  
乾田直播: 均平、耕起後の細砕土した畑状態の水田に種籾を土中1～2cmの深さに播種する方式。畑状態で播種するため作業性は高いが降雨の影響を受けやすいため、過湿な排水不良田は適さない。

## 〔栽培技術の要点〕

### <湛水直播栽培のポイント>

直播栽培の生育・収量および品質・食味は、出芽・苗立ちの良否に大きく影響を受けるため、それぞれの播種方式の基本技術を動かし、目標苗立数を確実に確保することが最も重要。



## 種籾準備

種籾準備	カルバーコーティング	ベンガラモリブデンコーティング	貝コーティング	リゾネアコーティング	塩水選・種子消毒・浸種・忌避剤コーティング
	<ul style="list-style-type: none"> <li>土中播種</li> <li>浸種必須</li> <li>播種時</li> <li>コーティング剤</li> <li>浸種期間: 約1週間(寒温)</li> <li>約1週間(冷蔵)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土中播種</li> <li>浸種必須</li> <li>播種時</li> <li>コーティング剤</li> <li>浸種期間: 約1週間(寒温)</li> <li>約1週間(冷蔵)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土中播種</li> <li>浸種必須</li> <li>播種時</li> <li>コーティング剤</li> <li>浸種期間: 約1週間(寒温)</li> <li>約1週間(冷蔵)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土中播種</li> <li>浸種必須</li> <li>播種時</li> <li>コーティング剤</li> <li>浸種期間: 約1週間(寒温)</li> <li>約1週間(冷蔵)</li> </ul>	慣行の移植栽培に準じる。忌避剤コーティングは下記の鳥害対策を参考とする。

## 播種

播種	10a播種量	播種深度	播種作業	10a播種量	播種深度	播種作業
	○4～6kg程度(乾籾相当量) ※リゾネアの場合、3～4kg程度	○土中 0.5～1cm	○播種機: 湛水直播機、無人航空機(ドローン含む) ○播種1～2日前に浅水で丁寧に代かきを行い、適正な土壌硬度にする ○所定量の種籾を播種するよう播種機を調整する ○表面播種を行った場合や播種量が多い箇所では、倒伏の懸念があるため注意する	○8kg前後(乾籾相当量)	○土中 1～2cm	○播種機: V溝播種機、ロータリシードなど ○降雨等で土壌水分が多い場合は、十分な乾燥状態になってから播種を行う ○浸種籾を使用する ○所定量の種籾を播種するよう播種機を調整する

## 水管理

水管理	播種後～出芽前期	苗立ち期	分け時期以降	播種後～出芽前期	苗立ち期	分け時期以降
	○播種後10～14日間の落水管理 ○播種2～3日経過後も表面停滞水がある場合は溝切りし強制排水	○入水時期 出芽前期 ○3葉期頃までの浅水管理	○移植栽培と同様、生育促進の適正な水管理	○播種後落水管理(7日程度)、出芽後(目標苗立ち数の50%程度)速やかに入水	○播種後入水(7日程度落水状態)、強制排水、出芽確認後5～7日後に再度入水	○播種後入水(7～14日間落水状態)、出芽確認後強制落水、3～4日後に再度入水

## 雑草防除

雑草防除	耕起の方法	除草体系	主な除草剤	除草体系	主な除草剤																																																																		
	○代かきは、播種1～2日前に浅水状態で丁寧に代かきを行う ○日減水深が2cm以下の水持ちの良いほ場を選定する	○コーティング剤によって、水管理が異なるため、除草剤の散布タイミング等を考慮する。 ① 播種時: 初期除草剤(ペルガ、ブライオリティなど) ② 1葉期: 初期除草剤(サラブレッドGO、シズイズなど)または中期除草剤 ③ 2葉期: 後発雑草がある場合、中後期除草剤(クリンチャー、バサラン、ロイヤントなど)	<table border="1"> <tr><th>薬剤名</th><th>剤型</th><th>使用時期</th><th>使用方法</th></tr> <tr><td>ペルガ</td><td>1kg粒剤</td><td>播種時、播種直後～1/3葉期</td><td>雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td>ブライオリティ</td><td>1kg粒剤</td><td>播種時、播種直後、播種直後～1/3葉期</td><td>雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td>アピロファースト</td><td>1kg粒剤</td><td>湛水直播の播種時</td><td>雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td>サキドリ</td><td>EW</td><td>湛水直播の代掻き時、湛水直播の代掻き後～播種前7日</td><td>代掻き時に原液散布し混和、原液落水散布</td></tr> <tr><td>シズイズ</td><td>1kg粒剤、シズイズ、707A、並つが</td><td>1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)</td><td>湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布</td></tr> <tr><td>サラブレッドGO</td><td>1kg粒剤、シズイズ、707A、400FG</td><td>1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)</td><td>湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布</td></tr> <tr><td>ジャスタ</td><td>1kg粒剤</td><td>播種時、播種直後～1/3葉期(収穫90日前まで)</td><td>播種同時散布機で施用、湛水散布</td></tr> <tr><td>ディオール</td><td>1kg粒剤、シズイズ、707A、E7-粒剤、粒剤</td><td>1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)</td><td>湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布</td></tr> </table>	薬剤名	剤型	使用時期	使用方法	ペルガ	1kg粒剤	播種時、播種直後～1/3葉期	雑草茎葉散布又は全面散布	ブライオリティ	1kg粒剤	播種時、播種直後、播種直後～1/3葉期	雑草茎葉散布又は全面散布	アピロファースト	1kg粒剤	湛水直播の播種時	雑草茎葉散布又は全面散布	サキドリ	EW	湛水直播の代掻き時、湛水直播の代掻き後～播種前7日	代掻き時に原液散布し混和、原液落水散布	シズイズ	1kg粒剤、シズイズ、707A、並つが	1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)	湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布	サラブレッドGO	1kg粒剤、シズイズ、707A、400FG	1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)	湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布	ジャスタ	1kg粒剤	播種時、播種直後～1/3葉期(収穫90日前まで)	播種同時散布機で施用、湛水散布	ディオール	1kg粒剤、シズイズ、707A、E7-粒剤、粒剤	1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)	湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布	① 播種時: 非選択性除草剤(ラウンドアップマックスロード) ② 出芽前・入水前: 選択性茎葉散布除草剤(ノミー、クリンチャー、クインチャーバスなど) ③ 入水後: 中後期発効除草剤(JA推奨除草剤を使用)、※ 後発の雑草がある場合、中後期除草剤も使用 【除草体系の例】 (ノミー発生多の場合) ①ラウンドアップマックスロード ②クリンチャーなど ③一発効(後発雑草がある場合、中後期除草剤) (ノミー発生多の場合) ①ラウンドアップマックスロード ②クリンチャーバスなど ③一発効(後発雑草がある場合、バサラン)	<table border="1"> <tr><th>薬剤名</th><th>剤型</th><th>使用時期</th><th>使用方法</th></tr> <tr><td>ノミー</td><td>液剤</td><td>乾田直播の播種後10日～1/2葉期</td><td>乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td rowspan="2">クリンチャー</td><td rowspan="2">EW</td><td>播種後10日～1/2葉期(25～1002/10a)</td><td>雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td>播種後10日～1/2葉期(0.8～1.62/10a)</td><td>無人航空機による散布</td></tr> <tr><td>クインチャーバス</td><td>液剤</td><td>播種後10日～1/2葉期(1kg/10a)</td><td>乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td>ロイヤント</td><td>乳剤</td><td>1葉期～1/2葉期</td><td>雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> <tr><td>ウィードコア</td><td>1kg粒剤</td><td>1葉期～1/2葉期</td><td>湛水散布又は無人航空機による散布</td></tr> <tr><td>ノフレクト</td><td>乳剤</td><td>1葉期～1/2葉期</td><td>乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr> </table>	薬剤名	剤型	使用時期	使用方法	ノミー	液剤	乾田直播の播種後10日～1/2葉期	乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	クリンチャー	EW	播種後10日～1/2葉期(25～1002/10a)	雑草茎葉散布又は全面散布	播種後10日～1/2葉期(0.8～1.62/10a)	無人航空機による散布	クインチャーバス	液剤	播種後10日～1/2葉期(1kg/10a)	乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	ロイヤント	乳剤	1葉期～1/2葉期	雑草茎葉散布又は全面散布	ウィードコア	1kg粒剤	1葉期～1/2葉期	湛水散布又は無人航空機による散布	ノフレクト	乳剤	1葉期～1/2葉期	乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布
薬剤名	剤型	使用時期	使用方法																																																																				
ペルガ	1kg粒剤	播種時、播種直後～1/3葉期	雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
ブライオリティ	1kg粒剤	播種時、播種直後、播種直後～1/3葉期	雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
アピロファースト	1kg粒剤	湛水直播の播種時	雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
サキドリ	EW	湛水直播の代掻き時、湛水直播の代掻き後～播種前7日	代掻き時に原液散布し混和、原液落水散布																																																																				
シズイズ	1kg粒剤、シズイズ、707A、並つが	1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)	湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布																																																																				
サラブレッドGO	1kg粒剤、シズイズ、707A、400FG	1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)	湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布																																																																				
ジャスタ	1kg粒剤	播種時、播種直後～1/3葉期(収穫90日前まで)	播種同時散布機で施用、湛水散布																																																																				
ディオール	1kg粒剤、シズイズ、707A、E7-粒剤、粒剤	1葉期～1/2葉期(収穫90日前まで)	湛水散布、バック投げ入れ、原液落水散布																																																																				
薬剤名	剤型	使用時期	使用方法																																																																				
ノミー	液剤	乾田直播の播種後10日～1/2葉期	乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
クリンチャー	EW	播種後10日～1/2葉期(25～1002/10a)	雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
		播種後10日～1/2葉期(0.8～1.62/10a)	無人航空機による散布																																																																				
クインチャーバス	液剤	播種後10日～1/2葉期(1kg/10a)	乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
ロイヤント	乳剤	1葉期～1/2葉期	雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				
ウィードコア	1kg粒剤	1葉期～1/2葉期	湛水散布又は無人航空機による散布																																																																				
ノフレクト	乳剤	1葉期～1/2葉期	乾田落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布																																																																				

## 土づくりと施肥

土づくりと施肥	全層施肥1回体系	全層施肥2回体系	5層施肥体系	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基肥窒素量: 速効性肥料を用い、移植栽培と同量。リン酸、カリの施用は移植栽培に準ずる。</li> <li>○ 追肥窒素量: 2kg/10a(幼穂形成期: 出穂25日前追肥)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 肥料の種類: 速効性肥料</li> <li>○ 施肥量: 速効性肥料を用い、移植栽培と同量</li> <li>○ 基肥窒素量: 施肥窒素総量の(基肥+追肥)の60%</li> <li>○ 追肥窒素量: 施肥窒素総量の40%を播種前(出穂30～35日前)と幼穂形成期の2回に同量ずつ施用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 肥料の種類: 速効性肥料</li> <li>○ 施肥量: 速効性肥料を用い、移植栽培と同量</li> <li>○ 基肥窒素量: 施肥窒素総量の(基肥+追肥)の60%</li> <li>○ 追肥窒素量: 施肥窒素総量の40%を播種前(出穂30～35日前)と幼穂形成期の2回に同量ずつ施用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 速効性肥料のLPS40日とLP100日(または70日)タイプの半量混合を基本とする。</li> <li>○ 施肥量: 窒素は移植栽培並み(1割増程度)。リン酸、カリは移植栽培並み。</li> </ul>

## 鳥害対策

鳥害対策	耕種的対策	出芽後の水管理	耕種的対策	忌避剤利用
	○ほ場の均平度を高め、播種後の落水管理中に表面停滞水が生じないようにする。 ○種籾が露出しないよう播種、覆土する。	○スズメ: 2～3cmの浅水管理 ※ 雑木林などスズメが多い場所では注意。 ○カラス: 5～6cmの深水管理 ※ 水深を深くする場合、カルガモに注意。	○ほ場の均平度を高め、均一な播種深度で出芽を揃える。 ○種籾が露出しないよう播種、覆土する。	○カラス、スズメ: キヒゲンR-2フロアブルの塗抹処理。 ※ 乾燥種子1kg当り原液20ml

## 病害虫対策

病害虫対策	収穫・乾燥・調整
○ 湛水直播、乾田直播とも移植栽培に準ずる。 ○ 生育の進みが移植栽培に比べて遅れることに注意する。	○ 湛水直播、乾田直播とも移植栽培に準ずる。 ○ 成熟期が移植栽培に比べて7～10日遅れ、登熟のバラツキも大きく、刈取適期判定には十分に注意する。

〔水稲直播栽培のメリット〕	〔農薬使用時の留意点〕	〔ドローン散布時の留意点〕
(1) 育苗作業、田植え作業の省略による省力化と労働の軽減 (2) 春作業、収穫作業の分散による作期の拡大、他作物との複合経営化 (3) 労働時間の削減と育苗資材費等の不要によるコスト低減が可能	農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認下さい。 農薬登録情報(https://pesticide.maff.go.jp/)	ドローンによる農薬肥料散布や散播などを行う際は、関係法令やドローン利用における注意事項を守って、適正な散布を実施して下さい。

※ 初めて直播栽培に取り組む場合は、作付面積や作業スケジュールなども含めて、計画的に行う。また、各JAや各地域農業普及振興漁業、(地独)青森県産業技術センター・農林総合研究所などからの指導を仰ぎながら、適期適正な栽培管理に努める。(地独)青森県産業技術センター・農林総合研究所「水稲V溝乾田直播栽培マニュアル」や農研機構(NARO)の各マニュアル等も参考とする。

令和6年2月作成